

第15回気仙沼市震災復興推進会議について(開催概要)

1 日 時：平成27年11月24日（火）午後2時～午後4時15分

場 所：ワン・テン庁舎 大ホール

出席委員：35名（代理を含む。欠席7名）

2 議事内容

・復旧・復興事業の進捗状況について

3 主な質疑等

・魚町・南町地区被災市街地復興土地区画整理事業について、この地域は無電柱化計画に該当する。現時点で未合意であるが、いつごろ協議を始めていくのか、どの街路を無電柱化する方針なのか伺いたい。

⇒内湾地区復興まちづくり協議会から要望を受け、現在、無電柱化できるかどうか検討している段階である。今後地元との話し合いを持ちながら、東北電力やNTT等の関係団体と協議を進めていきたいと考えている。

・造船施設整備事業について、水産加工業者から質問状が市に提出された旨の報道があったが、その内容と市の対応及び現在の事業の進捗状況を伺いたい。

⇒現在、水産加工業団体（3団体）から、水産加工と造船という異なる特殊性を持つ施設が隣接することに問題はないのか、環境・衛生面の問題はないのかという趣旨の質問状が市に寄せられている。造船団地の建設適地選定の経過について説明するとともに、環境対策については、国・県の関係機関や関係団体と環境対策評価委員会を設け、万全の対策をとるために協議を進めると説明している。本事業は、これまで取り組んだことがないほどに多様な調整や手続きが必要であるため時間を要しているが、水産業、水産加工業、造船業等の関係する皆様の協力なくしては進めることのできない事業であるため、今後とも誠心誠意対応していく。

（出席している水産関係委員より）⇒反対を表明しているのは3団体であるが、決して参加組合員が一致しての動きではない。市内には多くの水産団体があり、重複して組合員になっているのが実態である。認識している限りでは、多くの水産加工事業者は賛成と表明こそしていないが、反対はしていない。概ね理解しているようである。今後も真摯に対応願いたい。

・水産加工場の復旧が進んでいるが、それに係る排水処理施設の自然環境への影響について伺いたい。

⇒現在、終末処理場の水処理施設及び汚泥処理施設が完全復旧しており、接続している箇所については全て下水処理がなされている。また、接続が到達していない鹿折地区においては、仮設処理施設を設けて下水処理を行っているため、排水処理に問題はないと考えている。

・震災当時と比べて、沈下した地盤が隆起してきているが、当初計画していた岸壁の高さでは、海に落下した場合に岸壁に上がれない、船から荷物を上げ下ろすのに支障をきたすという意見が出ている。対応として50m間隔で梯子を設けると聞いているが、もう少し狭い間隔で設置してほしい。

⇒現在、地元の方と協議しながら、梯子の設置や岸壁に段差を付けるなどして利便性の向上に努めている。梯子の数には限りがあるが設置箇所については、地元と協議を進めながら対応していきたい。

・本吉町内の2か所にメガソーラー事業の話があるようだが、現在の状況について伺いたい。

⇒2つの事業者から相談が寄せられており、事業実施に当たっての基本的な設計や林地開発に向けての各種協議を行っている段階であることを確認している。市としては、地元の方々の了解を得られないうちから事業を進めることの無いよう、説明会などの適正な手順を経て進めるように話をしているところである。

・学校の適正配置における学校の統廃合が、地方創生における田舎でスローに生きる価値観という視点にどのようにつながるのか伺いたい。

⇒人口減少に対する気仙沼市の地方創生の取り組みには様々なものがある。しごとや定住・交流、結婚・出産・子育てなどの視点があり、これらが直接的に学校の統廃合等を指すというものではない。学校の統廃合については、気仙沼市義務教育環境整備計画において、子どもの人数が大幅に減少している本市で、より望ましい教育環境を目指すために取組んでいるものである。教育において地域に貢献するという姿勢はこれからも一貫して持ち続けていくものであり、地方創生における視点とも反するものではないと考えている。

・中学生の子どもたちとまちづくりについて話をする機会があり、様々な意見が出た。また、進学や就職で市外に出た後にまた気仙沼市に戻ってきたいか聞いたところ、ほとんど希望する人がいなかった。子どもたちが将来に夢を持てるようなまちづくりをお願いしたい。

⇒市では平成25年に高校生全員、そして、今年度、地方創生の取り組みの一環として市民、高校二年生とその保護者、市外在住者等の各世代にアンケートを実施している。現在、集計・分析中であるが、世代によって市に希望するものは異なっており、例えば高校生で言えば仕事の種類や収入の安定を求めるものが多い意見として挙がっている。各世代からの意見を尊重し、まちづくりを進めていかなければならないと考えている。

・UIJターン者に対して市ではどのような支援を考えているのか伺いたい。

⇒移住相談体制の整備や仕事の支援、空き家の活用等、ものによって長いスパンで検討していかなければならないと考えている。震災以降、若い移住者がたくさん入ってきており、彼らの意見も取り入れながら、支援策に取り組んでいきたい。

・JR線について、気仙沼から仙台まで2時間で移動できる方法を講じ、観光客増に生かしてはどうか。

⇒仙台へのアクセスについては、市としてもJRへ要望しているところであり、気仙沼から一関経由の新幹線の利用料金についても安くできないか交渉している。合わせて、仙台へのアクセスとして、現在、ミヤコーバスが運行しているが、JRが責任を持って高速バス路線を確保するようお願いしている。加えて、今後、市として国道284号の高規格化に関わっていきたいと考えている。復興道路の整備が進み、横串の道路も高規格化されていく中で、284号は取り残されている状況である。これは三陸道が延伸する中で、大船渡市や陸前高田市からも一関市へのアクセスが飛躍的に向上し、本市だけにメリットがあるものではない。皆さんにもご協力をお願いしたい。

・震災の教訓を伝えるため、毎月11日を震災や防災について考える日と定めてはどうか。

⇒現在、国で11月5日を津波防災の日と定め、この日に合わせて各自治体で大規模な防災訓練が実施されている。本市では今年11月7日に実施したものであるが、これは震災の教訓を伝えるという意味で非常に意義のある取り組みだと考えている。本件は震災伝承への提言として受け止めさせていただきたい。

・今回策定した総合戦略の中には様々な事業が掲載されており、ぜひ実行してもらいたいですが、限られた職員の中で更なる事業をこなすことができるのか。

⇒多岐にわたる事業を掲載しているが、重要性等を見極めながら優先順位を明確にし、取り組んでいきたいと考えている。また、事業の中には民間が主体となって取り組むものもあるので、市としての支援策も合わせて考えていきたい。